

南無阿弥陀仏

慶讃テーマ

人と生まれたことの意味をたずねていこう

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

真宗大谷派では2023年に「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えします。法要までのお待ち受け期間にとどまらず、法要後の宗門を見据えて「慶讃事業」を進めていきます。

慶讃事業の願い

慶讃法要をご縁とし、あらためて宗祖が顕かにされた教えをいただきなおし、次の世代に教えを相續していくことが、これまでお念仏を伝えてくださった無数の先達から願われています。慶讃事業のあらゆる取り組みは、私たち一人ひとりが、人と生まれたことの意味をたずねていく場を創造していくものです。私たちの次の世代へお念仏を手渡していくために、これからの宗門を形づくっていきます。

法要について

法要の歩み 当派では、1872(明治5)年に立教開宗を元仁元(1224)年とする宗派決定がなされました。それに基づき1923(大正12)年に初めての立教開宗七百年記念法要が勤められ、1973(昭和48)年には親鸞聖人御誕生八百・立教開宗七百五十年慶讃法要が勤められました。そして、このたび2023年に宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を皆様と共に勤めたいと思います。

- 第1期法要 2023年 3月25日(土)から4月 8日(土)
第2期法要 2023年 4月15日(土)から4月29日(土)
讃仰期間 2023年 4月 9日(日)から4月14日(金)



《基本日程》13時…集会(集合) 13時20分…勤行 14時30分…法話(約30分)
《法要次第》正信偈草四句目下、念仏讃陶三・六首引、回向(同朋唱和)を基本とし、各期に初中結を設け、各期一座は音楽法要を、各期末日は伝統法要式とし、参堂列(庭儀)による稚児行列を行います。
法要は一日一座とし、法要の前後の時間帯には、法座やさまざまな展示を企画します。団体参拝については、2020年7月以降に募集を開始する予定です。
また、真宗本廟が創立されて750年を迎える2021年春に、真宗本廟において「真宗本廟おまち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会」を開催します。 ※詳細は、内容が決まり次第、お知らせします。

総計画(予算概要)

2019年度から2022年度の4会計年度にわたって慶讃事業に取り組んでいきます。

Table with 2 columns: 収入 (Income) and 支出 (Expenditure). Total for both is 35 billion yen. Includes items like 特別賦課金, 法要費, 境内参拝設備費, etc.

ご懇志(慶讃懇志金)のお願い

宗祖の御誕生と立教開宗を勝縁とする慶讃事業は、宗門の将来を見据えた取り組みです。つきましては、お一人でも多くの方々から、この慶讃事業に対する深いご理解と格別のお力添えをたまわりたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ご懇志はお手次ぎの寺院・教会をとおしてお納めください。また、真宗本廟(東本願寺)及び大谷祖廟へのご参拝の折にもお受けいたしております。

ご懇志を進納されたすべての方に記念品(ボールペン)を贈呈します。進納額が5千円以上の方には、さらに腕輪念珠を贈呈します。



慶讃事業の主な取り組み

慶讃事業を進めていくにあたり、次の3つの方針を根幹として、将来の活力あふれる宗門の創造に向け、以下のことに取り組んでいきます。

- 1 宗門の基盤づくり—新たな教化体制の構築—
2 本願念仏に生きる「人の誕生」と「場の創造」
3 あらゆる人びとに向けた「真宗の教え」の発信

5つの重点教化施策

青少年教化 -ひとりと出会う-

青少年教化に携わる人の養成、子どものつどいの開催、子ども会講習会の拡充、若者教化の場づくり支援、子どもから大人まで親しめる『真宗児童聖典』(仮称)をはじめとした教材の制作、青少年の帰敬式受式奨励などを行います。



教師養成 -教学教化を荷う-

僧侶の「教えを伝える力」、「老病死の現場における対話の姿勢」を養うため、真宗大谷派教師養成課程に「法話実習」や「グリーンケア」など、実践的な学びを取り入れるとともに、教師資格取得後の学びを確保するための研修制度を構築します。



寺院活性化 -1カ寺の原点を確かめる-

お寺の主体的な活動を支える「元気なお寺づくり講座」、過疎や過密地域の寺院に教えの場を開く「お寺に寄り添う講師派遣」、子どもや若者との出会いの場をつくる教化支援を行います。支援員が向き、地域やお寺の状況に合わせた支援を実施します。



真宗の仏事の回復 -念仏相続の場を継承する-

朝夕のお勤めや報恩講をはじめ、通夜・葬儀・法事などのあらゆる仏事が、御本尊を中心とした聞法の場となることを目指し、真宗の仏事の回復に取り組めます。特に御本尊を手渡す取り組みなどを行う教区への助成や、仏事の意味を伝えるハンドブックの作成などを行います。



本廟奉仕上山促進 -真宗門徒の生活を習う-

寺院単位や一般向けの本廟奉仕の拡充をはじめ、慶讃法要おまち受け期間に、御誕生・立教開宗に関するご旧跡を巡る奉仕団などを実施します。慶讃法要期間中にも本廟奉仕を実施します。



将来を見据えた宗門の基盤整備

著しい社会変化を見据えつつ、教学の振興と教化の推進に軸足を置いた宗務機構への質的転換を図り、宗門活動の基となる寺院、組、教区のさらなる活性化を促す取り組みを進めます。具体的には「教区に設置される寺院活性化支援室の充実化」、「教区及び組の改編をはじめとする宗務改革の推進」、「教区教学研究機関の整備・充実と地方都市教化の展開」に取り組んでいきます。

記念事業 聖教編纂事業

当派の依り処とする聖教に関する情報の収集・調査を行い、そこで得られた知見を公開し、あらゆる教学教化の礎となることを願っています。

宗祖親鸞聖人七十五回御遠忌記念として編纂された翻刻『坂東本・教行信証』の縮刷版や延書の刊行をはじめ、宗祖の著された仮名聖教や和讃、漢文著作などについて、本文に加え、読解に資する校異・注釈等を付した聞法のテキストを順次刊行していきます。

さらに、『真宗聖典』データベースの公開のほか、「時代に相応しつつ、伝統を正しく表現する」という現『真宗聖典』編纂当初の願いを継承し、第2版の刊行に向けて取り組みを進めています。



坂東本「願浄土真実教行証文類(教行信証)」

慶讃テーマについての動画を公開中です
http://www.higashihonganji.or.jp/news/courtesy/29481/



真宗大谷派 検索